



ドラッグの悲劇



対象と用途

中学校・高等学校
保健体育・特別活動

上映時間 19分 [C#1540]
DVD 本体価格 66,000円(税抜)

企画 意図

危険ドラッグに関する事件や事故が近年急増し、大きな社会問題となっています。危険ドラッグとは、乾燥植物に薬物を染み込ませたものや液体状のものを「ハーブ」「アロマオイル」などと称して販売しているもの。その成分は違法薬物とほとんど変わりがなく、法規制を逃れるために分子構造が次々と変えられているため、人体への影響は全く予想もできない、極めて危険性の高い薬物です。平成26年4月に改正薬事法が施行され規制が強化されましたが、依然として危険ドラッグは安易に入手できる状況にあり、若者を取り巻く危険な状況は続いています。本作品は、危険ドラッグに手を出した少年の転落の軌跡をドラマと詳細な解説で描きます。危険ドラッグの恐ろしさを実感させ、拒絶する強い意志と危機意識を持たせるための薬物乱用防止教材です。

監修



星薬科大学 薬品毒性学教室 教授
世界保健機関(WHO)薬物依存性専門委員会 委員
薬学博士 鈴木勉



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

ドラッグの悲劇

ドラマ

受験を控え鬱屈した日々を過ごしていたカイトは、誘われるままついて行った先輩の部屋で危険ドラッグを勧められる。「違法じゃない」「ハーブだから安全」……そんな言葉を鵜呑みにして、カイトは手を出してしまう。



解説

危険ドラッグは、指定薬物の化学構造の一部を変えただけの非常に危険な薬物である。近年、危険ドラッグを摂取したことによる事件事故が後を絶たず、死亡したケースもある。違法か合法かという問題ではなく、体に深刻なダメージを与えることこそが問題なのだ。

ドラマ

一度でやめられる……そう思っていたカイトだったが、危険ドラッグを吸う回数はどんどん増えていった。異常な言動が増え、次第に現実と妄想の区別がつかなくなっていく。



解説

危険ドラッグに手を出す者は、次第にそれだけでは満足できなくなり、より強い薬物を求め続け、次第に薬物なしではいられなくなる薬物依存症に陥る。

ドラマ

離脱症状に苦しむカイトは、母親の金を奪ってまで薬物を求めるようになる。最後に先輩が売りつけてきたのは覚せい剤だった。それに手を出すと破滅する……分かっていても、もはやカイトは自分を止めることはできなかった。急性中毒を起こしたカイトは生死の境をさまよったのだ。



解説

麻薬には医療用麻薬と不正麻薬がある。不正麻薬とは安全性も有効性も全く検証されずに違法に流通する非常に危険な麻薬のこと。危険ドラッグもその一種である。

ドラマ

閉鎖病棟のベッドで茫然とたたずむカイト。フラッシュバックに苦しめられ、のたうち回る彼の叫び声がこだまする。彼は自分の未来を自分で殺してしまったのだ……。



プロデューサー：光田雅樹／川越英一

脚本・監督：土屋尚彦

撮影：松丸武彦

音楽：合田享生

資料提供：厚生労働省関東信越厚生局
麻薬取締部

制作協力 千葉エデュケーショナル株式会社

企画・制作 東映株式会社 教育映像部

予告編配信中!

<http://www.toei.co.jp/edu/>

教育映像

検索

2014年作品

●お買い上げは……

北辰映像株式会社

埼玉県さいたま市緑区三室2190-2 〒336-0911

電話048-810-5277

Fax048-876-2955